

## 矯正治療で2番目に必要なもの？ ドライデント 舌下用

矯正治療の後戻りを極力なくするために、  
『ドライデント 舌下用』は、私の臨床にはマストな存在です。

スウェーデン矯正歯科  
(東京都中央区)  
院長 石川基



ここ数年の歯列矯正に用いる器具の進化スピードは目覚ましく、最近では舌側矯正やマウスピース矯正が“身近な治療”となった。しかし、矯正器具はあくまでも「道具」であり、**矯正治療にとって1番大切なものは、『科学的根拠に基づいた現実的な治療計画』**であることに変わりはない。

しかし、その計画通りに治療が終了しても、歯並びが治療前の状態に戻る、いわゆる後戻りを起こすと治療を行った意味がなくなる恐れがある。それゆえ歯列矯正では、**後戻りを極力防ぐための『保定』が2番目に大切なもの**と思われる。

特に、下顎の前歯部は、後戻りが起きやすい部位であり、ボンデッドリテーナーの装着が科学的に推奨されている。実際筆者が専門医教育を受けた、スウェーデンはイェテボリ大学にある矯正スペシャリストクリニックでは、ほぼ100%の患者にボンデッドリテーナーが装着され、綺麗になった歯並びを維持したい期間（つまりは一生）の装着を患者に推奨している。

下顎前歯にリテーナーを装着する時に問題になるのが、舌下小丘および舌下ヒダから分泌される唾液である（写真1）。



写真1 舌下部には唾液が溜まりやすい

排唾管での唾液の排除は可能であるが、不意に舌下小丘から「ピューッ」と飛び出る唾液を防ぎきれないことがある。それがリテーナーのボンディングに大きな影響を与え、ひいてはリテーナーの脱離や歯列の後戻りにつながるリスクが増加する。

その悩みを解決するのが、「ドライデント 舌下用」である。

その3つの特徴は、

- ・パッド中央に切れ込みが入っていて、舌小帯に関係なく安定して置ける。(写真2)
- ・パッドが柔らかく、患者に苦痛を与えない。
- ・リテーナー装着に十分な時間、舌下部の唾液をよく吸収する。(写真3)



写真2 ドライデント 舌下用を使えば防湿は容易である

また筆者は、ドライデント 舌下用を最大限活かすために、唇側矯正の場合には以下の手順でリテーナーを装着している。

- ① 歯冠清掃（パウダーポリッシング）
- ② エッチング
- ③ ロールワッテ挿入（唇側）
- ④ デンタルフロス挿入  
(リテーナーをデンタルフロスで保持する場合)
- ⑤ ドライデント 舌下用装着
- ⑥ 十分な歯面乾燥
- ⑦ プライミング
- ⑧ リテーナーのボンディング  
(光重合レジン)

矯正器具を用いて歯を動かす治療期間よりも、治療後の保定期間の方が長い。それを考えると、歯を動かす過程が矯正治療では重要視されがちであるが、保定はもっと重要な過程であるかもしれない。

保定をより確実なものにしてくれるドライデント 舌下用、私の臨床にはなくてはならない頼もしい存在である。

ドライデント（広告はP.22をご覧ください）

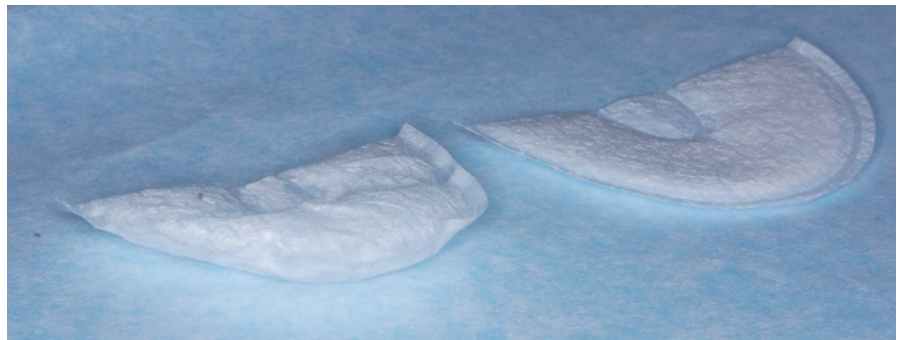


写真3 唾液を十分な時間しっかりと吸収してくれる（左：使用后、右：使用前）